



大森 有希子 おおもり ゆきこ

豊田工業高等専門学校
一般学科 助教
研究分野 物性理論

名古屋大学 理学部 卒業
名古屋大学大学院 理学研究科 博士課程 修了
日本学術振興会 特別研究員
名古屋大学 高等研究院 特任助教
豊田高専 一般学科 助教 (現在)

教育活動を通して 自分も人間性が磨かれます

大学で研究していたときよりも研究に割ける時間は減りましたが、10代の学生の教育はやりがいのある仕事です。学生たちから逆にエネルギーをもらい、私自身も成長させてもらっていると思っています。

トだと思っていました。

また、学位を取って3年程たったところに結婚が決まりました。そうしますと、その次のイベントは出産です。大学で特任助教の職についていましたが、任期内に出産は言い出せません。任期が終わってからだと33~35歳ぐらいになってしまいますし、そこで休むと次のポストを見つけるのが厳しいと思いました。そのためパーマネントの職に就きたいと考えていたところ、ちょうど現在の高専で応募が出たのです。夫の仕事の関係で別居婚になるため、仕事と子育ての両立に不安もあるのですが、この高専は実家の隣市にあり、もしものときに両親からの協力を得られそうで、その点も魅力的に思えました。

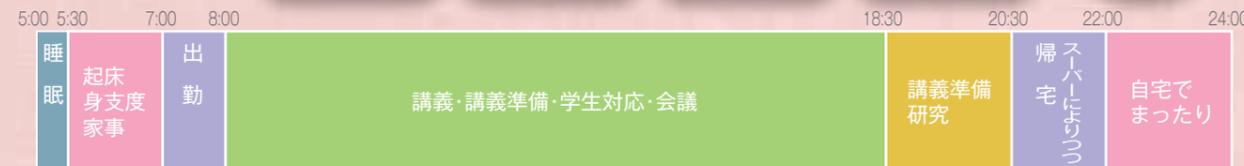
そんなこんなで、漠然と考えていた理想のポストにぴったりあてはまる条件だったのが現在勤務している豊田高専だったのです。それで思い切って応募し、採用して頂けることになりました。

高専の教員になっていかがですか？

大学では、周りにいるのが大学生や大学院生ばかりだったため、高専で初めて授業に出たときに「あっ、こんなに小さいんだ」とびっくりしました。1、2年生の授業だったので当然なのですが、学生の緊張がそのまま伝わってくる感じで、こちらもとても緊張したのをよく覚えています。今ではお互いすっかり慣れて、10代の学生達と思いきりぶつかっています。また、自分が高校生の時と比べて、学生と教員の距離がとても近いと感じます。職員室とちがって、教員室が個室だから来やすいのかもしれませんが、学生が雑談や勉強をしに来て毎日楽しいです。初めての年なので、授業のために準備しなければならないことも多く、なかなか自分の時間はとれませんでした。良い充実感を得られています。

1年過ごしてみて、これまでのポストでは得られなかった経験をしていると思います。自分の研究の時間が減ってしまったことは正直痛いですが、10代の学生の教育をこれ程ガッツリできることにやりがいを感じますし、逆に学生たちからすごくエネルギーをもらって

研究生活の
ひとコマ



ます。教育活動を通して自分の人間性が磨かれるところがとてもあって、大学で研究していたときには見えなかった自分が見えたり、出たりしていると思うので、成長させてもらっていると非常に感じます。

どのような仕事をしていらっしゃいますか？

来たばかりなので、指導教員などの仕事はしていません。ほぼ授業のみです。一番時間を割いていたのが、2、3年生の「物理実験」「応用物理実験」という授業で出すレポートの指導でした。1人1人のレポートを丁寧にみて添削すると、1クラス分だけで1日が終わってしまっていました。それでも、実験がうまくいったときに学生がうれしそうに顔をすると、こちらも嬉しく、力が入ります。最近レポート指導のスタイルが変わりましたが、今でも実験授業に喜びを見いだしてほしいと思って指導にあたっています。赴任して1年がたち、授業が一通り終わったので、来年度からは少し授業の準備が楽になって、その分の時間を研究に回せるといいなと思っています。

授業外の時間には、学生が結構研究室にやって来ます。女性教員は学生にとってお母さんみたいな存在なのかもしれません。特にテストの時期は学生たちがたくさん質問にやってきて、遅くまで残っていくため、時間的に大変です。終了時間を決めて切るようにしたいのですが、彼らの熱意に負けてつい遅くまで残ってしまいます。

豊田高専では、女子寮での宿直もあります。2014年までは女性教員は日直のみだったそうですが、2015年度から宿直にも入ります。担当は女子寮ですが、それでも100人程度はいます。宿直では学生の思いがけない一面を見られたりして、楽しいですね。

男性教員が多いなかで何か感じていることはありますか？

高校の時から理系クラスで女子が少なかったのも、男性の多い環境に対しては特に何も感じていなかったの

ですが、今思っていることは、女性の先生が多いと産休・育休を取ることが普通の状況になるのかなということですね。これまでに育児休業を取られた先生が少なく、いざ自分がとなったときに、ちょっと言い出しにくい感じがします。豊田高専では、これまでに2人の女性教員が育児休業を取られたと聞いていて、心強く感じています。

また、先生方は各々の専門棟にいらっしゃるの、あまり学校の中で会う機会がありません。同じ学科でも教員室が個別ですので、女性教員どうしの情報共有の場が自然発生しづらいです。そうすると、例えば、いま誰が大変な状況にあるとか、ヘルプを必要としているといったことが分かりにくいね、ということも女性の先生方とお話したことがあります。子供が病気になるとか、幼稚園でこんなことがあったなどの育児の話をする中で、いろいろアドバイスがもらえたり、愚痴を聞いてもらうことで気分が楽になったりするのはないかと思っています。

高専教員を目指す人への メッセージ

- 高専では教育に割く時間や労力の割合が圧倒的に大きいです。またほとんどの場合、職場内に同分野の研究をしている人間がいないと思いますので、日常的に研究の議論をすることができません。
- 研究環境ではどうしても大学や研究所に劣ってしまいますが、別の面からそれを補うものも多い職場です。私個人は、1年間の学生とのやりとりでずいぶん芯が太くなったと思いますし、教育で得た経験のせいか、研究に向かう姿勢も良い方向に変わりつつあると感じています。
- ぜひ飛び込んでみてください。